



St. Luke's International University Chapel

聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 TEL 03-5550-2416 (事務室)

E-mail : chapel@luke.ac.jp URL <http://nsskk.org/tokyo/church/luke>

マルコ福音書7：31-37、聖霊降臨後第16主日、24/09/08)

## 「眉唾」

チャプレン ヨナ 成成鍾司祭

「眉唾」や「眉唾物」という言葉があります。何か信じがたく怪しいと感じられることを指します。例えば、できすぎて胡散臭い話や信憑性に欠けた情報のこと、さらにはその疑わしいことに騙されないように用心することを意味します。元々は江戸時代から日常会話で使われていた「眉に唾をつける」という表現が、明治時代に入って短縮されたようです。眉唾や眉唾物の由来には諸説ありますが、二つがよく知られています。一つは、迷信から由来しますが、眉に唾をつければキツネやタヌキに化かされないという言い伝えからきた説です。昔、キツネやタヌキは、人を化かす時に眉毛の毛の数を数えると言われていたそうです。そのため、眉に唾をつけ固めて数を数えられないようにすれば騙されることもないという考えから由来します。もう一つの説は、平安時代の武将藤原秀郷が、現在の滋賀県にある三上山で大ムカデを退治した伝説によります。大ムカデの嘔く炎で藤原の眉毛が焼かれそうになった時、自分の唾を眉毛につけてこれをしのぎ、さらに弓矢にも唾をつけて射り大ムカデを退治したという内容です。

このように信じがたい迷信や荒唐無稽な出来事を由来として眉唾というユニークな表現が生まれました。その背後には民衆の生活全般に浸透していた唾についての俗信的な考えがあったとみられます。それは、古来より唾には魔物を退けたり、自分を保護し癒したりする不思議な力があると信じられていたということです。今の時代にもその名残があります。例えば、足がしびれた時におでこに唾をつけたり、蚊などに刺された部位に唾をつけたりする行為もその延長線上で理解することができます。唾に不思議な力があるという理解は世界的にあり、聖書の世界でも見られますが今日の福音書がその代表的な例です。

今日の福音書によりますと、キリストは耳が聞こえず口の利けない人を癒す際に、ご自分の唾を使います。唾を手につけて人の舌に触れ、「エッフアタ」（開けという意味）と言われると、たちまち耳が開き、舌のもつれが解けて話すことができるようになりました。ところが、ここで注目すべきところは、キリストがなぜ唾を使ったのか、唾にはどのような力があつたのかということではありません。唾は単に当時の慣習的なこととして用いただけであって、唾自体に力があるわけではないのでそれに惑わされではありません。まさにそれは眉唾であって、むしろキリストが伝えようとした御心は「エッフアタ」という言葉にあります。唾はそのために用いられた道具に過ぎません。

では、開けという意味の「エッフアタ」は、誰に向けて語られた言葉なのでしょう。聖書の殆どがそうであるように、ここで言う「耳が聞こえず口の利けない人」(32節)は特定な誰かではなく、まさに私たち一人ひとりを示しています。いつの間にか、自分という世界に閉じこもって、耳が聞こえず口が利けない状態に陥ってしまった私たち、それゆえ聞くべきことを聞かず言うべきことを言わない私たちのことなのです。御声を聞いてそれを延べ伝えることをアイデンティティとしている信仰者ではなく、自分独自の経験、価値観、知識というイデオロギーの信奉者になってしまっている私たち自身に他ならないわけです。そういった意味で、「エッフアタ」は、私たち一人ひとりに自らを開くようにと声を掛けられた神様の問いかけなのでありましょう。

(※聖書は裏面に記載されています)

<福音書> マルコによる福音書 7章 31～37節

<sup>31</sup>それからまた、イエスはティルスちほう さの地方へを去り、シドンちほう とお ぬを経てデカポリス地方へを通り抜け、ガ  
リラヤ湖こ こに来られた。<sup>32</sup>人々ひとびとは耳みみが聞きこえず口くち きの利きけない人ひとを連つれて来きて、その上うえに手てを置おいて  
くださるねがようと願ねがった。<sup>33</sup>そこで、イエスはこの人ひとだけを群衆ぐんしゅうの中なかから連つれ出だし、指ゆびをその  
両耳りょうみみに差さし入いれ、それから唾つばを付つけてその舌したに触ふれられた。<sup>34</sup>そして、天てんを仰あおいで呻うめき、その  
人ひとに向むかって、「エッフアタ」と言いわれた。これは、「開ひらけ」という意い味である。<sup>35</sup>すると、たちま  
ち耳みみが開ひらき、舌したのつれが解とけ、ははっきりと話はなすようにななった。<sup>36</sup>イエスは人々ひとびとに、このことことを  
誰だれにも話はなしてはいけくちどない、と口止くちどめをされされた。しかし、イエスが口止くちどめをされればされるほど、  
人々ひとびとはかえいってますます言ひろい広ひろめた。<sup>37</sup>そして、すおどろっかり驚おどろいて言いった。「この方かたのななさなったこ  
とはすべて、すみみばらしい。耳みみの聞きこえない人ひとを聞きこえるようにし、口くちの利きけない人ひとを話はなせるよう  
にしてくださる。」